

---

# ヘブンズウェイ

トンガリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヘブンズウェイ

### 【Nコード】

N1615C

### 【作者名】

トンガリ

### 【あらすじ】

死後の世界を舞台にした、ファンタジー。死んでしまった青年に  
ついに裁きが下された。青年を待ち受けるものはいったい何なのか。

## 鬼との出会い。

一人の青年が、真っ白な広い部屋で目覚めた。髪はぼさぼさで無造作にみだれ最悪の目覚めといった感じだ。青年は目をこすりながらむくつと立ち上がり、辺りを見渡した。そして、青年が自分の背後に目をやったと同時に、一人の男が話かけてきた。

「やっと気が付きましたか。」青年はその男を見た瞬間、衝撃を受けた。その男は大柄で眼鏡をし、頭から角を生やしている。どうやら書類をまとめているらしく、事務机に座り、手には数枚の書類と羽ペンを持っていた。

「つつ角？」青年は驚きのあまり口に出た。男は単調に言った。

「それでは、簡単に説明したいと思います。ここは裁きの部屋、私は閻魔様の代理の鬼です。大変申しあげにくいのですが、あなたは死にました。」

青年は、二度の衝撃によるめきかけたが、そんな暇もなく男は話を続けた。

「それでは、こちらの十界図を御覧下さい。これは、人界と死後に行くと言われる、天界、声聞界、縁覚界、菩薩界、仏界、地獄界、餓鬼界、畜生界、修羅界、以上十の世界が絵描かれた図です。私達がいるこの部屋は丁度、人界と天界の間に位置します。」

青年は、透かさず言った。

「ちよつと待ってくれよ、俺が死んだ？」しかし、男は何も聞かなかった様に話を続けた。「これから私は閻魔様の代理として、あなたを人界においての所行に応じて裁かなければなりません。裁きの結果になるものとしては、以下のとおりです。転生修業の旅、または地獄界での強制労働のち使えなくなった靈魂は完全消滅させます。この二つの内どちらかしかありません。これで説明は終了です。色々戸惑っていると思いますが、質問は裁き終了後をお願いします。」

青年は、もどかしさにイライラしていた。男はおかまいなしに、話し始めた。

「それでは、閻魔様の名の下に裁きを始めます。まず最初にあなたの履歴確認をします。えーと、10月15日に日本で生まれ日本で育ち、神社の息子で、名前は神堂剛しんどう つよし、17歳の高校生、170センチ、60キロ、A型、死因は神社の倉を掃除中階段から落ちて死亡、間違いないですね？」

剛は驚きで口が開いたままになり動かなくなったが、頭の中はフル回転していた。『俺は、階段から落ちて死んじまったのか、これからどうする、さっき転生がどうのとか言ってたな、結果を待つしかないのか。』

男は話を続けた。

「それでは、君の人生評価を読み上げます。死因評価、10点減点、猫を助けた経験あり、2点加点、嘘をついた経験3回あり、3点減点、合計賽銭金額1045円、105点加点、精算結果100点、よって転生修業の旅へ行くことを命じます。」剛は完全に動かなくなった。

男はやつと剛を氣遣った様で。

「大丈夫ですか？でも、仕方がないんですよ。」

剛は我に返り、男に言った。

「……旅？旅っていったい何するんです？」

しかし、男はほほ笑みながら言った。

「その質問は、船でして下さい。私の仕事はこれで終わりです。」

剛は、我慢できずに言った。

「ふざけるな！船！？そんなものどこに」

男は、剛の文句が言い終わる前に何かのボタンを押して言った。

「こちらのエレベーターに御乗り下さい。これを見ると船ターミナルに出ますので、そこからは係員が案内します。」すると事務機の横の壁が、チーン、という音をたて開いた。剛はまた文句を言ううとしたがやめ、剛は男に従いエレベーターに乗った。そしてドア

が閉まり、エレベーターは昇り始めた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1615c/>

---

ヘブンズウェイ

2011年1月12日22時08分発行